

一般社団法人 奈良県建築士会について

奈良県建築士会は、建築士法に基づき、建築士の社会的地位の向上と建築文化の進展、そして建築専門家としての社会貢献などを目的として、昭和26年11月に設立されました。行政や各種団体と連携を図りながら、職能を活かし地域に根ざした活動を展開しています。

近年、建築に関係する分野でも、以下のような課題が顕在化しています。

- ・人口減少や住宅の老朽化による空き家の増加
- ・毎年発生する水害や地震による被害の増大
- ・高齢化の進展
- ・既存ストックとしての歴史的建築物の活用
- ・景観の保全と調和

これらの課題に対して積極的に活動を進めていきたいと考えています。(ホームページより抜粋)

建築士をはじめ、ゼネコン・中小工務店から、都市計画の専門家等、あらゆる業種の優秀な会員が集まっています。

情報誌『士会奈良』の表紙では「奈良の駅シリーズ」として万葉まほろば線の駅舎を連載されています。

明治期に建設された駅舎の魅力を再発見していただき、駅舎のデザイン上の発見・再発見、駅舎の活用、駅を基点としたまちづくりを紹介しています。

今回、天理駅を取り上げられました。

◎天理駅の沿革

- ・明治31年：奈良鉄道「丹波市駅」として開業
- ・明治38年：関西鉄道の駅舎となる
- ・大正4年：天理軽便鉄道（現・近鉄）の天理駅が開業
- ・昭和40年：国鉄線の高架化に伴い駅を移転。天理駅に改称され、近鉄と統合。(右写真 旧国鉄天理市駅)

◎天理駅前広場

・平成29年(2017)、天理駅前広場に「コフファン」が完成しました。古墳をモチーフにしたデザインで、主構造物にはプレキャストコンクリート(PC)造が採用されています。

奈良の駅 シーズVol.04

駅名：天理駅

【駅舎概要】  
所在地：天理市川原町 816  
区域区分等：第一種住居地域  
構造・規模：RC造2階建  
建設時期：昭和40年  
【沿革】  
明治31年5月：奈良鉄道の丹波市駅として開業  
明治38年2月：関西鉄道が奈良鉄道と合併、関西鉄道の駅舎となる  
大正4年2月：天理軽便鉄道（現在の近鉄天理線）の天理駅開業  
昭和38年5月：国鉄丹波市駅が天理市（てんりし）駅に改称  
昭和39年10月：近鉄天理駅が移転  
昭和40年9月：国鉄線高架化に伴い線路付替え・駅移転。天理駅に改称し近鉄の天理駅と駅統合

■天理駅・天理駅の歴史  
天理市は昭和29年山辺郡丹波市町・朝和村・福住村・二階堂村・添上郡櫻木町・磯城郡本町が合併して発足。天理駅の名を冠した宗教都市である。天理駅は天理市中心部に位置する。  
天理駅のホームは2階建てで、4ホームの内2ホームは天理駅の団体専用ホームとなっている。現在の駅舎は昭和40年に区画整理事業にもない統合移転したものであり、それ以前は線路が現在位置から東へ100mほどのところを南北に走っており、当初の駅舎は現在の天理市民会館の位置にあった。実際に路線と思われる部分は田圃付込に始まり、歩いてみると途中に当初と思われるレンガ積み構造物を見ることができ、北大路通りをさらに北上し田圃町の現在フランスグッド工場があるあたりで合流していたようである。  
面白いのは田圃の合流地点で道路に向かってみると急なカーブがあり、ここから新路線を曲げていったのだという歴史を感じることができる。元々別々であった日本国有鉄道と近畿日本鉄道の天理駅が統合されて新しい天理駅が創設された経緯から、地元では「天理統合駅」とも呼ばれており、天理統合駅前交差点など一部の地名にもこの名が使用されている。駅の西側の田井の庄池公園には往年の蒸気機関車151が静態保存されている。

■天理駅前広場  
2017年に現在の新しい駅前広場「コフファン」が完成した。天理市には約1600基もの古墳が残り、佐藤オオキキョウ建築設計事務所は古墳のカタチを組み合わせることで、山々に囲まれた奈良盆地の地理的特徴を表現しようとした。主構造物はプレキャストコンクリート(PC)造、放射状の36分割されたPC部材を現場において圧着接合している。広場内には総合案内所、カフェレストラン、ショップ、遊具、屋外ステージが備わっている。  
広場の名称「コフファン」は、デザインの主要モチーフである「古墳」と、「ファン」(扇)とを組み合わせることで、古墳のカタチを表現しようという思いが込められている。天理市長は「コフファン」と他人に笑顔で自慢できるような場所になって欲しいことから付けられたもの。  
その思いの通り、地域の各行事やイベントの場として、子供たちの遊びの場として大に活用されて観望されている。特にトランポリンは大人気でオープン期間中は常に子供たちが列を待っており、活気を感じさせてくれる。  
【記：住まいまちづくり委員会 幸川雅久】

■SHIKAI NARA 2024, 01



当初の天理駅の様子  
昭和40年(1965)旧国鉄天理市駅構内・国鉄天理本通り跨線橋より  
写真提供：西田博嘉氏

掲載の写真は奈良県立図書館  
今昔WEBより